アンドレ・モーロワ著「青年と人生を語ろう―しっかりした骨組みを維持するための 4 つの規則―」二見書房 1968 年 2 月 28 日刊を読む(2)

しっかりした骨組みを維持するための４つの規則

はじめに

（1）わたしは手はじめとして、あなたに若干の規則を思いだしていただこうと思います。

（2）これらの規則は文明とおなじくらい古く、新しい技巧や虚無的な哲学にもかかわらず、真実を失っていないのです。

１．その第一は、＜**おのれより別のもののために生きなければならない**＞ということです。

（1）自分自身のことについて思いをこらすひとはいつも、不幸になる理由を無数にみいだすことでしょう。

（2）かれは自分のしたかったこと、しなければならなかったことを一度も、まったくしなかったのです。かれは手に入れるだけの価値があると思ったものを一度も、まったく手に入れなかったのです。かれはそうありたいと夢みたであろうようには、めったに愛されたことがないのです。

（3）もしかれがおのれの過去を咀嚼（そしゃく）しなおしてみるなら、かれは悔恨か良心の呵責を感じることでしょう。それもいまとなっては無駄なことですが。《わたくしたちの過失は忘却に捧げられています。それが過失の価値のすべてなのです。》廃棄する手だての皆無な過去を抹殺するかわりに、先ざきあなたの誇りとなるような現在の建設に手を染めてください。

（4）自分自身との矛盾こそ諸悪の最たるものです。他人のため、祖国のため、妻のため、仕事のため、飢えたひとたちのため、迫害されたひとたちのために生きるひとはみんな、不思議なほどみずからの苦悩や、くだらない気苦労を忘れています。《真の外界こそ真の内界である。》

２．第二の規則は、＜**行動しなければならない**＞ということです。

（1）世界の不条理について嘆くかわりに、わたしたちが投げこまれている片隅を変改するようにこころみてください。わたしたちは全世界を変えようとしても不可能なことですし、それにだれが全世界を変えようなどとのぞんでいるのでしょうか。

（2）わたしたちの目標はもっと身ぢかで、もっと簡単なものなのです。つまり、わたしたちが職業につくにあたり、それを十分に選択し、それを熟知し、それの達人となることです。だれもが自分の行動半径をもっています。わたしは本を書き、指物師はわたしの書架の棚板をあつめてくれ、お巡りさんは交通の整理をし、技師は建設の図面をひき、市町村長は市町村の管理をおこないます。

（3）もしみんなのお手のものの仕事がオーバーワークにならないかぎり、仕事で身体を動かしているときがいちばん幸せなのです。このことが嘘でない証拠に、かれらは閑なときにも、さまざまな競技やスポーツといった一見無駄にみえる行動をみずからに課しています。相手が泥んこのなかでタックルしてくるような、ラグビーをやることがたのしいのです。

（4）有用な行動に関しては、わたしたちはその効果をたのしみます。活動的な町長は清潔な町をつ

くり、活動的な司祭は活気にあふれた聖堂区をつくり、この成功を見てかれらは満足するのです。

３．第三の規則は、＜**意志の力を信じなければならない**＞ということです。

（１）未来は完全に決定されている、というのは真実ではありません。偉大な人物は歴史の流れを修正することができます。そうしたいとのぞむ勇気のあるひとならだれでも、自分自身の未来を修正することができます。

（２）むろん、わたしたちのだれもが万能というわけではありません。各自の自由にもおのずから限界というものがあります。自由は可能性と意志との境界線上に生きているのです。戦争を阻止しようとしてもわたしひとりの力ではどうにもなりません。しかし、ひとつの行動を言葉と文書によって実行することはわたしにもできます。その行動が数百万のひとの同意をうることによって、戦争の可能性をすくなくすることもできるでしょう。

（３）わたしはわが同胞に、きみたちは侮辱されたのだとか、きみたちは祖国とともに自殺することを名誉が要求している、などという見当ちがいなことを、どんな場合にも言うことは差控えることはできます。戦いに勝つことはわたし次第というわけにはまいりませんが、わたしなりの立場で、《情況によって》、勇敢な兵士になるかどうかは、わたし次第であります。

（４）《意志の限界はどこまでやりぬくかどうかによる》ように、いつも、限界のことなど気にかけないで、自分自身を最善に統御することが必要です。怠惰、卑劣は遺棄すべきものです。仕事、勇気は積極的行為の成果です。意志はおそらく、美徳のなかの女王とも申せましょう。

４．しかしながら第四の規則として、意志と肩をならべるもうひとつの貴重な価値のあるものをあなたがたに提示いたしましょう。それは**誠実**です。

（１）**約束に、契約に、他人に、自分自身に誠実であること**。＜**決して欺くことのない人間であらねばならない**。＞誠実はなまやさしい美徳ではありません。無数の誘惑が、とりかわされた約束をつらぬいてとびこんできます。

（２）あなたはこうおっしゃるでしょう。《なんですって？もくぼくが尻がるで、誠実さのかけらもない愚かな女と結婚したとして、ぼくはこの女に誠実であらねばならないとでもおっしゃるのですか。もしぼくがある職業を選んだとして、そしてその職業がぼくの期待に反するものであることがわかったとして、それでもぼくは新しい出発をみずからに禁じなければならないのでしょうか。

（３）もしぼくがある政党に加盟したとして、その政党が堕落した貪欲なひとたちのあつまりでできていることがわかっても、ぼくが十分に調査したうえで、まえのよりずっと清廉であるとみとめた別の政党へ加入することを拒まねばならないのでしょうか。》いえ、ちがいます。誠実は盲目的なものではありません。ただ、雅量の欠如のあらわれともいうべき不誠実を、選択のあやまりのせいにしないようにしなければなりません。

（４）《それとは反対に、あらゆる選択はあなたまかせにしているかぎりみんな不当なものとなるが、善意が働けばすべて当をえたものになりうる、と考えるほうが正しい。その職業をよく知るためにその仕事を選ばなければならなかった、といったいい加減な理由で自分の職業を選ぶようなものはだれもいない。自分の愛を選ぶようなものもひとりとしていないのである。》とアランは言っています。だが、ひとりの女を模範的に仕上げたり、選ばれた職業を立派にやりとげたり、政党の体質改善をやったりすることは(往々にして)可能であります。誠実は誠実を正当化するものを創りだすのです。

おわりに

（1）こういった人生への諸規則は、あなたにとってきびしいが同時にそっけないもののように思えることと、わたしには想像されます。そのことは十分承知のうえですが、これ以外にはないのです。

（2）わたしはあなたに、手のつけようもない禁欲主義者として人生をわたるように、とは要求しておりません。**ユーモアの感覚**をおもちください。あなた自身を――そしてわたしを――嘲笑うことのできるようにしてください。あなたの弱点をすなおにおみとめなさい。あなたがその弱点を抑制できないかぎりは。

（3）だが、そういう弱点は弱点として、**しっかりとした骨組は維持する**ようにつとめなくてはなりません。市民がみんなおのれの野心とか放埒のためにのみ生活しているような社会。暴力や不正を黙って見のがしているような社会。人間同士がおたがいに信頼感をもっていない社会。全員が意欲を失っているような社会。こういった社会はすべて破滅の運命にある社会であります。

（4）**ローマが英雄たちのローマであったかぎり、ローマは繁栄していました。ローマがみずから築きあげた価値を尊重しなくなったとき、ローマは滅んだのです。新しい技術は行動の様態をかえます。新しい技術は行動の価値も、行動する理由もかえることはありません。**当初においてそうでありましたし、終局にまでそうであることでしょう。

P11 ～ 17

＜コメント＞

（1）他人のために生きる

（2）行動する

（3）意志の力を信じる

（4）誠実

以上 4 つのしっかりした骨組みを維持し、人生を生きる。一人ひとりが地域社会における英雄を目指す限り、その社会は繁栄する。自分たちの社会が築き上げてきた価値を認識、尊重、誠実に行動することの大切さを気付かせてくれるアンドレ・モーロワの文章。

― 2016 年 8 月 16 日（火）　林　明夫記―